

《薩摩焼 色絵金彩花鳥凶花瓶》

江戸時代（十九世紀）
陶磁
径二九・〇 高六七・〇

薩摩金襴手と呼ばれる、色とりどりの花鳥が描かれた豪華絢爛な色絵金彩の薩摩焼である。牡丹や菊の花々が咲き乱れるなか、太湖石の上に朱色のズグロインコが留まる南方風のイメージが描かれている。首部で宙を翻る青い鳥には発色の良い絵の具が使わ

れており、同種の作品では類例のない印象に残る作品である。このような大型で華やかな色絵花瓶は、薩摩藩が輸出向けだけでなく贈進用として本来一対で作られることが多く、皇室にも多数献上され宮殿装飾の一部として用いられていた。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

鳥の楽園 — 多彩、多様な美の表現

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 68

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年三月二十一日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan